



写真79-1 麗江旧市街地の家並み

千三百年の歴史を誇り少数民族であるナン（納西）族の作った麗江^{*1}（リージャン）。かつて交易の中継地として栄え、中国雲南省西北部に位置する世界文化遺産に登録（1997年）された古都である。名前がまず美しい。周囲を丘に囲まれた城壁のない旧市街地は、標高2、400mに達する高原にあるが、地形的に夏は涼しく冬は暖かい気候に恵まれている。北に5、500mを超える王龍雪山^{*2}が聳え、そこを源とする豊かな水流からさらに人工的に作られた東西2本の水路を介して市内の各所を巡る。それらは湾曲した石畳の路地に沿うようにさらに枝分かれし、民家が密集した旧市街地を網の目状に覆っている。旧市街地の家並みはこの地域に産する煉瓦と瓦が混在し、総じて燻銀色であるのが特徴である。1996年に地域を襲った大地震で被災し、大きな被害を蒙った。その後復興の過程で、世界文化遺産としての旧市街地の再生が進められてきた。その結果、今の姿がある。

*1
[1] 麗江、雲南省西北部に位置する古都、人口約113万

*2
王龍雪山（ぎょくりゅううせつぎん）、標高5、596mの処女峰

まちなみの特徴の一つは、狭小な道路と古い家並みの間を流れる水路と、その上の所々にかけてられたアプローチ替わりの渡り板である。その水路は生活用水であり、斜面のところどころには共用の水汲み場や洗い場が設けられている。豊かな水量の水路と共にある暮らしの風景は瑞々しく魅力的だ。自動車が通れないほどの狭い路地を歩き回って、その魅力を噛みしめることができる。



写真79-2 麗江の四合院中庭

*3
四合院、中庭を中心に持つ、中国の伝統的家族建築様式

麗江の伝統的住まいはといえば、北京に多くあった中庭を囲む方形の「四合院^{*3}」をはじめ、4種類ほどのパターンを見ることができ。外界から隔絶された静かな中庭は、中東でも欧州でも同様で万国共通だが、「天子は南面する」という風水や儒教の教えに基づき、一家の長は南面する一面を占有した。北京では文化大革命を機にその思想自体が否定され、四合院の多くが破壊されていく悲しい運命をたどった。一方

の麗江では、世界文化遺産という歯止めを得て、現在まで姿をとどめたことはまことに幸いであった。



写真79-3 民家周りの水路



写真79-4 まちを流れる水路と水くみ場